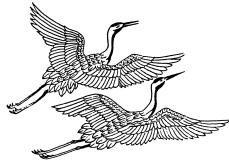


日本看護歴史学会 會報

日本看護
歴史学会
第49号
2008年1月15日



2008年年頭所感 看護の灯をさらに高く掲げ、飛躍の年に

日本看護歴史学会副理事長 草刈 淳子

平成20年という新たな年を迎え、改めて「昭和も遠くなった」との思いを深くする。本年（2008）は、厚生省医務局に「看護課」が誕生し、また保健師助産師看護師法が制定されてから60周年という記念すべき年である。それぞれ昭和23年（1948）のことであり、人間で言えば還暦にあたり、人生の1つの節目である。わが国の近代看護教育120年余りのほぼ半分を第二次大戦後の看護の歴史が占めるに至ったのだ。

昭和23年7月31日、日本の衛生行政史上初めて看護職として初代看護課長に就任したのは、「保良せき」であった。米国コロンビア大学で学び、米国と日本で訪問看護事業を実践してきた、当時のわが国では得がたい教育背景と素晴らしい実力を備えた「看護課長」が誕生したことは、戦後の看護の基盤を作る上で誠に幸いであった。

残念ながら、在職2年足らずで昭和25年6月末、看護課長を辞された。一昨年ようやく、保良課長執筆の「半年後をみつめて」（看護学雑誌4（1）、1949）を見出した。そこには、「日本の看護は世界の看護に百年遅れている!」とあり、何としても、この遅れを取り戻すために自分はここに来たのだと並々ならぬ決意が記されていた。

昨年 ICN 学術集会が30年ぶりに日本（横浜）で開催された。1977年の東京大会では「看護の限らない可能性を求めて」New horizons for Nursing が大会テーマであったが、今期は「最前線の看護者たち：予期せぬ事態に立ち向かう」Nurses at the forefront：dealing with the Unexpected であった。過去60年間の、特に後半30年間のわが国における看護の急激な変化を見る思いである。



つまり、当時、看護がまだ未熟ではあるが、将来の限らない可能性を持った広がりを見出し、胸膨らませて未来に向かっていた日本の看護職は、21世紀の今日、世界の看護職と共に、社会の第一線で、地震・洪水などの災害や SARS・AIDS などの感染症をはじめとした様々な出来事に立ち向かう保健医療の担い手として、社会の多様な場面で活躍している。しかも今回の主催者 ICN 会長は日本代表（南裕子）であった。

かつて保良が100年遅れていると慨嘆した日本の看護職は、60年にして世界の看護に追いつき、先導する時代に至ったのだ。

1977年の ICN 日本組織委員長であった小林富美栄先生は、恰もそれを見届けられたかのように、去る8月初旬天に召された。大会当時日本看護協会会長、同副会長であった大森文子、大塚寛子両先生、戦後占領軍総司令部本部の看護指導者と共に日本の看護を育てられた湯横ます、金子光先生等、筆者らが直に教えを受けた諸先生、看護職初の環境庁長官となられた石本茂先生も昨秋旅立たれ、世代の交代を実感させられる。

超高齢化社会の経済変化に伴い、患者中心のチーム医療、病院から地域へ、在宅医療・訪問看護へと、総合医療・継続医療が現実となる時代となった。急速な IT 化、国際化を背景に倫理問題、医療費問題、効率的効果的なケアが一層求められる中で看護の力が問われる今日、新世代に期待される場所は大きい。温故知新、歴史の正しい理解の上に、看護の灯をさらに高く掲げて本学会の更なる発展の年にしたいものである。

日本看護歴史学会第21回学術集会を終えて

京都府立医科大学医学部看護学科 学術集会長 福本 恵

日本看護歴史学会第21回学術集会を無事に終了できました。会員の皆様並びにご参加頂いた皆様のご協力に感謝し、厚く御礼申し上げます。お陰様で、延べ250名と多数のご参加を得、講演、交流セッション、研究発表のいずれも好評のうちに終えることができましたことをここに報告し、皆様とともに喜びたいと存じます。

学術集会は、残暑厳しい9月1日(土)・2日(日)に、京都府立医科大学において開催致しました。講演Ⅰの中西直樹氏(筑紫女学園大学)による「近代日本における仏教と医療・看護・福祉のかかわり」では近代以降の仏教者の活動の歴史を概観するとともに現代社会における意味づけを考えさせられる内容でした。また講演Ⅱの小野尚香氏(神戸親和女子大学)による「京都看病婦学校と京華看病婦学校—明治期における近代看護の癒しのところを考える—」では、看護にみる癒しの普遍性は、宗教との深い関わりがあるとの認識にたち、キリスト教活動の要素として、また、仏教活動の要素として全人的な癒しを目指すもの、それは死にゆくことへの癒しも含めた人としての存在と人生に向き合うものであり、看護する者が自分と向き合うものでもあるとの指摘がなされた。いずれも、メインテーマ「歴史から学ぶ看護のこころ～仏教系の看護婦養成と近代的看護教育～」に熱く迫るご講演でありました。

終了時に回収しましたアンケートの結果からみますと、テーマに関心ありが86%と多く、嬉しいこと

でした。

交流セッションでは、「6つの研究テーマそれぞれが興味深く参加したいところが複数以上あって困った」や「時間が短い(90分位必要)」というご意見がありました。

全体構成は、会場との関係もあって工夫したところですが1日目に講演等を集中したきらいのあったことです。1日だけの参加の場合を考えると、もう少し分散してゆとりを持たせても良かったかと反省するところです。貴重なご意見を有り難うございました。その他、初めて参加したがとても面白かった。触発された、学習したなど。会場関係としては、冷房が効きすぎ、マイクの不調子、研究発表の会場が狭すぎたなどの指摘もありました。示説会場に椅子を置くなどの配慮や交流セッションや研究発表の会場の大きさと参加見込み数との兼ね合いについては今後とも検討を要するところではありますが、ご不便をおかけしましたことについてはご容赦ください。

亀山美知子氏の展示コーナーは好評でした。多くの方に氏の研究者としての足跡を理解していただくことができたと自負しています。関係者の方々と資料整理に汗を流したあの暑い夏の日を懐かしく思い出しますが、これらの史料の保存と活用は今後の課題として取り組んでいきたいと考えています。

おわりに、ここ京都の地で始まった日本看護歴史学会が会員の皆様の拡がりとともに全国各地に引き継がれ、ますます発展することを心から念じています。



福本恵会長



会場風景



鼎談 右から中西直樹氏、小野尚香氏、坂本玄子氏、芳賀佐和子氏

日本看護歴史学会第21回学術集会収支決算報告書

開催日 平成19年 9 月 1 日、2 日

収入の部

項目	予算額(円)	決算額(円)	摘要
参加費	980,000	1,192,000	事前申込 会員 (7,000×90=630,000) 非会員 (8,000×10= 80,000) 当日参加 会員 (8,000×24=192,000) 非会員 (8,000×36=288,000) 学 生 (2,000× 1= 2,000)
広告料	30,000	35,000	10,000円× 2 社、5,000円× 3 社
その他	10,000	11,241	抄録 4 冊販売代・寄付等
合計	1,020,000	1,238,241	

支出の部

項目	予算額(円)	決算額(円)	摘要
当日運営費	250,000	225,000	講師・協力者昼食代 (87人分)、協力員謝礼、生花代他
会議費	50,000	93,137	企画・実行委員会交通費、講師事前打合せ交通費他
講師謝金	281,000	326,370	講師謝金、交通費他
通信費	105,000	100,570	郵送料他
印刷費	145,000	234,570	抄録・封筒等印刷
事務費	179,000	165,397	消耗品、講演テープおこし他
その他	10,000	70,250	懇親会費補填他
合計	1,220,000	1,215,294	

収入1,238,241円－支出1,215,294円＝残金22,947円（日本看護歴史学会へ寄付）
以上、ご報告いたします。

平成19年11月23日 会計担当 京都府立医科大学医学部看護学科 堀井 節子



2006年度決算報告

一般会計

期間 2006年 4 月 1 日～2007年 3 月31日

〈収入の部〉

項目	予算額	決算額	差 額	備 考
会費収入	1,380,000	2,174,000	794,000	6,000円×361口、4,000円× 2 口
会誌売上	150,000	64,415	85,585	学会誌売上63,615円 (送料含む) 会報売上800円
寄付 第20回学術集会 個人		180,000 4,160		学会運営に80,000円 20周年記念事業に100,000円
その他(雑収入)		17		利子
前年度繰越	1,383,430	1,383,430	0	
合計	2,913,430	3,806,022	879,585	

〈支出の部〉

項目	予算額	決算額	差 額	備 考
I. 会議費	270,000	275,043	-5,043	
1. 理事会	250,000	228,598		理事会 2 回
2. 総会	20,000	46,445		総会 1 回
II. 委員会活動費	651,000	437,037	213,963	
1. 編集委員会	230,000	230,000		交通費、郵送費、会議費等
2. 企画会報委員会	20,000	12,380		メモリ、文具
3. 研究活動推進委	100,000	3,142		送料、ファイル
4. 広報委員会	101,000	48,805		入会案内印刷費・送料
5. 情報委員会	0	71,660		パソコンソフト、スキャナー
6. 特別委員会	200,000	71,050		20周年記念事業
III. 出版費	790,000	725,884	64,116	
1. 会報発行	90,000	86,697		第44号 (350部)、第45号 (500部)
2. 学会誌発行	700,000	639,187		第19号 (350部)、第20号 (500部)
IV. 事務経費	390,000	433,615	-43,615	
1. 会議費	0	0		
2. 交通費	50,000	48,605		会計監査他
3. 印刷費	50,000	31,500		学会用封筒
4. 通信費	80,000	113,765		学会誌・会報・振込用紙送料金
5. 人件費	150,000	140,390		会員名簿管理他
6. 文具・その他	60,000	99,355		バインダー、プリンター用インク、 タックシール、振込み・宅配料金
V. 諸会費	80,000	80,000	0	日本看護系学会協議会
VI. 積立金	70,000	70,000	0	第 8 期選挙費用積み立て金
VII. 予備費	662,430	0	662,430	
合計	2,913,430	2,021,579	891,851	

次年度繰越 3,806,022－2,021,579＝1,784,443円

2006年度特別会計報告

1. テレホンカード売上収支(総務)

	2006年度売上			2006年度末残数
	2005年末残数	売上数	売上金	
看護婦	5	0		5
保健婦	16	4	3,200	12
助産婦	114	2	1,600	112
合計	135	6	4,800	

各種 5 枚づつ保存用とすること

項目	収 入	支 出	残 額
前年度繰越			1,250,048
利子	46		1,250,094
テレホンカード売上	4,800		1,254,894
第19回学術集会より返金	200,000		1,454,894
第20回学術集会へ貸し出し		200,000	1,254,894
選挙用積立金	70,000		1,324,894

2006年度 残高 1,324,894円

日本看護歴史学会
2006年度会計監査結果報告書

2006年度に関わる会計を監査したので報告します。

1. 監査実施日 2007年 7 月 28 日

2. 2006年度決算監査結果

2006年 4 月 1 日から 2007年 3 月 31 日までの会計収支報告書について会計業務執行状況の監査を行いました。
会計担当理事平尾より関係書類及び預金通帳の現物の提示を受け、会計収支報告書に基づいて厳正な監査を行った結果、日本看護歴史学会の 2006 年度の収支を適正に表示していることを認めました。

2007年 7 月 28 日
日本看護歴史学会 会計監査 山本捷彦
会計監査 藤村龍典

ナイチンゲール記章と受章者たち

吉川 龍子

すでに皆さまもご承知のように、本会理事長の川嶋みどり先生が第41回フローレンス・ナイチンゲール記章（2007年）を受章されました。

この記章は、100年前の第8回赤十字国際会議（1907年）の勧告および第9回同会議の決議に基づいて設定されたフローレンス・ナイチンゲール基金の事業として創設されました。

ナイチンゲール女史の生誕100年にあたる1920年に第1回受章者が決定して以来、1年おきに世界で50人以内がこの栄誉ある記章を受章し、日本人では川嶋先生が100人目にあたります。

受章資格は、初めは平時または戦時において傷病者に対して献身的な活動をなし、その功績が特に顕著な看護婦でしたが、1993年からは公衆衛生や看護教育の分野で顕著な活動や創造的・先駆的な貢献をしたことが加わり、男性も受章対象とされるようになりました。

川嶋先生は、患者の生活行動を援助する看護実践に価値をおき、臨床に携わりながら学べる場を提供するなど、現任教育の啓

発に大きく貢献したことが受章の理由となりました。

日本人の第1回受章者の萩原タケ女史は、1909年以来 ICN 大会に出席し、1929年設立の日本看護婦協会会長として、日本の ICN 加盟に尽力しました。第一次世界大戦中にイギリスに派遣されて救護に活動した山本ヤヲ女史、同じくフランスで活動した湯浅うめ女史も第1回受章者です。

第二次世界大戦後は赤十字看護婦以外の受章者も多くなり、ターミナルケアで知られる寺本松野女史、長崎での被爆体験から平和活動に打ち込む久松シソノ女史、アフリカでエイズ予防教育とエイズ患者支援の活動をした徳永瑞子女史など多彩な顔ぶれが見られます。

看護史関係では、ナイチンゲール女史の実像と業績を正しく紹介した湯植ます女史、『看護人名事典』『看護史の人びと』を著わした雪永まさる女史があげられます。



第8期理事・監事選挙の公告

2007年9月1日の総会で、第8期理事・監事の改選が確認されました。これにより「日本看護歴史学会理事および監事選挙規則」に基づき、本会報の発行日をもって理事・監事選挙公示日といたします。

投票期間は、発行日より平成20年3月15日（当日消印有効）までとなります。投票用紙は別途郵送のものを使用し、理事（10名）・監事（2名）に相応しいと思う会員に印をつけ、投票所宛の封筒を使用し、無記名で郵送してくださるようお願いいたします。

選挙管理委員会氏名

総会の場で選出された選挙管理委員は次の通りです。
城戸 滋里氏 芳賀 佐和子氏 山崎 裕二氏（五十音順）

なお、規則により、選挙権は会費を（今回は平成18年度）期日までに完全に納入した人、被選挙権は、入会3年を経過し、会費を完全に納入した人に与えられます。

日本看護歴史学会第22回学術集会の開催にあたって

九州大学大学院医学研究院保健学部門看護学部門 学術集会長 丸山マサ美

第22回学術集会は、第8回（大分府、江崎フサ子氏担当）から14年ぶりに九州・福岡において開催します。

昨年8月に、平成20年の第22回学術集会長を引き受けるように理事会より仰せつかりました。山本捷子監事からも強く要請され、九州における学術集会の意義も感じましたので、もとより非力ではありますが、数少ない会員の中からお願いし企画委員のご協力の下に準備を進めております。

本学会の会員分布からみても西日本（九州・沖縄）の看護歴史研究の活動は、どちらかといえば低調とされます。この学会開催が研究活動の発展の良い契機になりますことを期待しております。

会場の名も「九州大学医学部百年講堂」。旧九州帝國大学時代から100年余、長い歴史のある福岡市東区馬出（まいだし）（旧千代町）に存在し続けてきた九州大学病院の一角です。福岡県庁のすぐ隣で足の便も良い所です。

メインテーマは「歴史の中に生きる看護の心」といたしました。近代看護は医学の発展とともに歩んできましたが、専門的な知識と訓練を必要とする職業です。それをも確認しつつ、看護の精神 ethos を模索する歴史的学術集会となるようにと考えております。

Ethos（ギリシャ語）とは、人間の持続的な性格の面を意味すると共に、ある文化などの本質的な特性、集団・個人の気質、またある民族や社会集団にゆきわたっている道徳的な慣習・雰囲気をも意味します。看護のエートスとは、“看護における倫理的感受性” “看護の心” ともいうもので、それは、歴史の中にどのように生きているのでしょうか。一緒に考えてみたいテーマだと存じます。

特別講演Ⅰ「医の心・看護の心」を元九州大学外科学教授の井口潔氏にお願いしました。氏は日本癌治療学会名誉会長、フランス・アカデミー会員で「ヒトの教育の会」代表であり、医療者の Ethos について氏の教育愛と

の観点から語っていただきます。

講演Ⅱ「歴史の証人—実践看護管理60年—」の前田マスヨ氏は九州帝國大学医学部看護員養成所卒業後、長い看護職にあって、東海大学病院看護部長も歴任され、豊富な看護管理の経験をお持ちです。“緋の肖像—真島智茂伝”も著わされております。

教育講演はナイチンゲール研究の第一人者である宮崎県立看護大学学長薄井坦子氏に「ナイチンゲール看護論の継承と発展」と題して、新しい視点でナイチンゲールを紹介していただきます。

お三人の講演は、日本における職業集団の歴史的事実と共に、現在の課題そして普遍的な“医療専門職者の ethos”にも、大きな示唆が与えられるものと期待しております。

オプションプランとして、九州大学病院看護部、看護部長中畑高子氏のご好意により若干名ではありますが大学病院のご案内と、九州大学大学院医学研究院耳鼻咽喉科学講座、教授小宗静男氏のご配慮で1時間程、医学博物館（Kubo-Museum）公開予定です。

懇親会には、フルート奏者で音楽研究家の前田りり子氏に特別出演をお願いしました。中世・ルネッサンスから現代までのフルートの形態と音の変化の軌跡を追う〔音色に込められた人間の歴史〕のトークと美しく素晴らしい演奏をお楽しみいただくひと時をもちたいと存じます。

暑い九州の晩夏ですが、学会終了後の週末には、豊かな自然と歴史の宝庫九州各地の旅をお楽しみください。特に大宰府の九州国立博物館、近代医学の窓口長崎、キリシタン医療看護の豊後大分、日赤発祥記念の熊本・佐賀県など、あるいは海を隔てた隣の韓国や中国訪問など、歴史探訪の機会にさせていただいたらと願っております。



第22回学術集会・専用・振込用紙を同封しております。

専用口座 01750-8-109225

*日本看護歴史学会 年会費（口座）とは異なります。
ご注意ください。


 新入会員紹介(敬称略)

* () 内は会員番号

長尾 厚子 (07-007)	藤田 光恵 (07-012)	高宮 洋子 (07-017)	阿部トモ子 (07-022)
尾崎 雅子 (07-008)	有森 直子 (07-013)	吉田 圭子 (07-018)	唐崎 愛子 (07-023)
丸岡 洋子 (07-009)	田代 順子 (07-014)	松澤 和正 (07-019)	紺野 洋子 (07-024)
十九百君子 (07-010)	菊池よしこ (07-015)	岸田 恵子 (07-020)	
田辺有里子 (07-011)	宮本 眞弓 (07-016)	安藤 正枝 (07-021)	


 五史合同例会に看護歴史学会が初参加
 

12月8日(土)順天堂大学において「五史合同例会」が開催され、本年度より日本看護歴史学会も加わり、会員より演題を1題(平尾真智子氏)発表いたしました。この五史というのは医療系の歴史学会のことで、「日本医史学会」「日本薬史学会」「日本獣医史学会」「日本歯科医史学会」とこれまで四史が年に一度12月に合同例会を開催していたものに、「日本看護歴史学会」が加わり五史となったものです。

発表演題は「魯迅が『藤野先生』に書かなかったこと」(医史)、「薬事衛生の歴史の変遷と薬学教育6年

制改革の開始」(薬史)、「猫エイズ(FIV)の歴史」(獣医史)、「歯科治療と麻酔の歴史—絵画を中心に」(歯科医史)、「明治28年に翻訳出版されたビルロートの看護書について」(看護史)で、関連する医療系の他分野の歴史を知るには大変良い機会です。

例会後の五史学会合同の懇親会では川嶋理事長が本学会を代表して挨拶をされ、他学会との交流が行われました。毎年12月の土曜日に順天堂大学で開催されますので、皆さんも是非ご参加ください。

平成19年度会員の動向 (平成19年8月30日理事会報告)

1. 現在会員数：319名
2. 入会者数
平成19年4月1日以降の新入会員
：13名(8月30日現在)
3. 退会者数：21名
4. 住所不明の会員数5名→会員数に入っている。いずれは会費未納による退会になる恐れがあります。対応策として、事務局が移動の事実を把握している場合には、1回に限り所属先等に連絡を入れている。また、今年度から住所変更届け用紙を会報・学会誌発送時に同封し、会員自らの届出を促している。住所変更時には、ご一報を。

訃報 本会特別会員 高岡スミ子先生逝去

8月1日、高岡スミ子先生が逝去されました。91歳。謹んでご冥福をお祈りいたします。

内田卿子先生が特別会員に

今年度総会で、内田卿子先生が特別会員に決定しました。



内田卿子氏と氏家幸子氏

編集後記

本号には「ナイチンゲール記章と受章者たち」の記事を掲載した。若い会員たちにナイチンゲール記章について知って欲しい、という理事からの声を受け、吉川龍子さんに執筆をお願いした。情報交換とともに知識を共有できる内容にしたと思う。(す)

日本看護歴史学会会報 第49号

企画・編集 高橋みや子(京都橋大学)
大石 杉乃(東京慈恵会医科大学)
発行責任者 田中 幸子(山形大学)
印刷 有限会社 新和印刷
事務局 〒990-9585
山形市飯田西2-2-2
山形大学医学部看護学科 田中幸子
Tel&Fax 023-628-5432
e-mail satanaka@med.id.yamagata-u.ac.jp